

神奈川県建築士会横浜支部 よこはま支部だより

39

発行日
平成18年1月1日

(社) 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当: 大平
〒231-0003
北仲通り4丁目45
(建築士会館)
Tel (045) 201-1284
Fax (045) 201-0784

平成18年新春のご挨拶

横浜支部長 南 利幸

平成18年の念頭にあたり、会員並びに賛助会員の皆様方におかれましては、新たな希望に満ちた新春をお迎えの事と存じます。

昨年中は支部活動に対し多大なるご支援ご協力を賜り心中より厚く御礼申し上げます。本年も会員並びに賛助会員の結束強化を図り、地域に貢献する支部を目標に努力を重ねてまいりますので一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、2006年の動向ですが、日本経済においては長かった不景気から抜け出し、昨年末には民間設備投資も15年振りに、全産業で前年度比15%も上回り、民間設備投資が景気をけん引する構図が鮮明となり景気回復の足どりも力強く、先行きに明るさが見えてきました。また、本年は人口増加社会から人口減少社会に転換する歴史的な年でもあります。一方、建築業界に転じますと談合問題に始まり回転ドア事故、アスベスト問題、吊り天井落下問題など暗いニュースが続き、極めつきは建築士による耐震強度偽装事件という前例のない一大不祥事件が起り国民の不安を煽り、信頼を失ったことであります。

事件の広がりや影響があまりにも大きく、国民不安を払しょくするまでの道のりは険しく今年も建築界は多難の年となりそうです。

今回、一建築士の故意による改ざん事件は、行政や民間の確認機関を含めた建築確認システムのあり方に加え、設計者や技術者の倫理などさまざまな問題点を露呈しました。マンションという国民の最も密

接な部分で発生した事件だけに、設計業界や建設業へと発展し、建築生産全般にかかわる偶発的でなく構造的な問題へと拡大しています。しかし建築活動は中断することなく、マンションの建設ラッシュは続いています。また地震が頻発している時期だけに、国民の不安は一層増すばかりです。

国民の不安を解消するには、事件の再発防止策を講じなければなりません。更に事件は拡大し課題は続出し、短期間では抜本的な方向性を見出すことは難しい。

現段階では緊急性があり現実性の高い以下の何点かに絞り議論を進めてみたいと思います。

はじめに「専門分化の進展による総括責任者の欠落」であります。社会の発展につれ「個」の確立が進み、かつてのような専門領域間を越えた調整機能を失い、相互の調整や確認のないまま設計情報が施工現場へ流れたり、施工現場から設計へのフィードバックがないまま建築が完成しその結果、欠陥を見過ごすこととなっています。この対応策としては、基本的には統括者と参加する専門スタッフとの間で業務範囲と責任を明確にし、書面に依る契約を結ぶのが一般的であります。建設業界の中には、あうんの呼吸で仕事を進めることもあります。近年発注者（顧客側）、消費者の立場から設計をチェックしたり、現場の

平成18年新春のご挨拶	1・2
「木造2階建住宅建築の構造計算」勉強会	3・4
土建屋一級建築士の独り言 渡邊一郎	
部会訪問 建築環境部会 氷室敦子	5
スクランブル調査隊 「鞆の浦」参上 森山恒夫	6・7
第7回ハイキング紀行 三浦アルプス 大西正之	8・9
ワイン同好会	10
レトロ建築見学 絵画同好会	11 12・13
テニス同好会便り	14・15
活動報告・編集後記	16

出来高を確認する第三者やプロジェクトマネージャーなど専門家の導入は、統括が明確となり管理の公明性も高まります。

次に「建築事業者の倫理規定の整備と遵守」であります。前段と関連しますが、チーム編成による事業を進めるとき、自分の領域の目的達成には関心を示すが、自分以外の領域に無関心となり、結果として改ざんを見抜けなかったのは注意義務の放棄が責任逃れのいずれかで、全体の目的を見失うことは職能倫理の欠落であり、まさに倫理の破たんであります。この対策として考えられるのはコンプライアンス（法令遵守）の導入であります。今や民間企業においてはコンプライアンスの設置は常識であり、中にはISOの導入まで図り、企業活動の情報開示に努めており、ましてや国民の生命や財産を護る業務に携わる建築士は個人、組織を問わずコンプライアンスの導入は必須条件であります。更にトラブルのアフターケアとして、「倫理違反に関する苦情処理機関の設置」など高い倫理観をもつ施策の具体化が急がれます。

さらに重大なのは「民間確認機関の危機管理の欠落」であります。そもそも確認期間の民間開放は審査量の問題ではなく、建築の専門分化に対応することも大きな理由であったが、民間確認機関に専門能力を有する検査員が欠けていたため、偽造を見抜けず建物が完成してしまった。言われている構造計算書へのヘッダーデータの記載漏れ、構造計算プログラムに大臣認定書の未添付を見逃していたなどは、チェック強化の徹底で防止できたことであります。まさに危機管理が欠けており、その上公的機関と同等の責務を担うという重い責任感が欠けていなかったか。規制緩和の流れの中、民間でも確認業務を開始するようになった時から、このような問題が起ることは予想されていました。

更に言うと公平、中立な確認審査が行えるかと言うことであります。民間確認機関の中には利害関係者と見られてもおかしくない企業が出資しており、はたしてこれで公平、中立を貫き審査ができるのかと疑問を持たれてもしかたがないと思います。そこで対応策であるが確認審査は国民の生命や財産を護る重大な審査であるから、審査員は高い専門知識を要し、充実した研修制度により、常に最新知識を取得し確かな技術者の目を養わなければならない。また、複数の検査員による二重、三重のチェック体制が望ましく添付資料には計算入力データの義務付けや同データによる計算プログラムの検証を早急にも実施することも必要ではないかと思えます。

他の分野の企業においてもIT犯罪は多発化、巧妙化しており今後とも改ざんの危険性は高い。未然防止の観点から他企業の動向に注目し情報収集に努めるとともに、セキュリティ専門家の養成も急務ではないか。更に公平、中立に立つ審査をチェックする機関として身内の監査のほか組織内に「外部監査制度」の導入が不可欠ではないかと考えます。その他として、顧客保護の立場からは「建物に関する情報公開」や市場メカニズムの中で不良、不適格企業が排除される「開発者などの市場評価システム」の導入、開発者への住宅性能保証制度を義務化する問題など今回の問題と並行して早期に実現すべきことと思えます。

今後の警察の捜査の進展によっては、更に問題点が表面化することも考えられ、抜本的な再発防止策の提言を行うまでには時間を要すると思われる。そのような中で、建築三団体が丸となり、共同で再発防止のための作業に着手し、国民に信頼できる提言を行うと表明しています。皮肉にも今回の事件が引き金となり、建築三団体が同じ土俵に登れた事は今後の建築業界の再生に向け心強く嬉しいことと思えます。

建築三団体が知恵を出し合い提言する中味が、国民にとって納得でき判り易く、また建築士法の見直しも高い倫理観をもち建築士の負のイメージを払しょくし、更に建築業全体が改革する契機となる、国民から信頼される内容でなければ国民からも見放され建築業界の再生はあり得ません。

我々建築士は、格調高い提言となるよう自らの問題とし自らの責務ととらえ一人一人が発言し、もの言う建築士となり、あなたが動き、行動する建築士となり提言の実現に今すぐ行動しましょう。

新年早々から暗く、いささか食傷気味の話に最後までお付き合い頂き厚く御礼申し上げます。本年も昨年同様に会員並びに賛助会員の皆様におかれましては、各種行事にご参加頂きますよう重ねてお願い申し上げます。2006年が皆様方にとって益々のご発展とご多幸に心中より祈念申し上げます年頭のご挨拶にかえさせて頂きます。本年も宜しくお願い申し上げます。

技術・情報委員会主催
「木造2階建住宅建築の構造計算」勉強会開催



2004年4月号から2005年3月号までの1年間にわたり、会誌にCPD連載講座(「木造2階建住宅建築の構造計算」全12回)が掲載されました。講座は、構造の専門家でない建築技術者の方々のために入門書のような判り易い構造計算学習を勉強する内容となっていました。本来は、会誌のCPD講座として各会員による自習を目的としたものでしたが、連載講座の終了を機に、直接、本講座の著者である里川長生先生に講師として、全講座をご講義いただく勉強会の機会を得ることができました。勉強会は4月から7月まで、毎月1回開催し、4回連続受講の構成としました。会員皆さんの勉強会への参加意識は高く、全員が一年前からの連載講座の記事を保管されていました。

今回のように会誌を勉強会のテキストに使用する試みは初めてですが、今後も同様に会誌を有効活用し、有意義な勉強会を開催したいと考えています。

土建屋一級建築士の独り言

株式会社 渡辺組 代表取締役 渡邊一郎

私は早朝自宅の周りをゆっくりとしたペースで走ることを日課としています。その昔、学生時代は柔道に励んだのですが、体型と食欲は当時と変わらないので健康のために実施しています。走りながら街並みの変化を見るのも楽しみの一つです。職業柄建築工事現場の前を走り、工事の進み具合を見るのも楽しいものです。地縄張り、そして根伐が始まり現場の前に無神経に早朝からダンプがエンジンを掛っ放しで駐車し、騒音・排気ガスを撒き散らしている光景を目にすると我社の現場では環境に配慮することに最大限務めようと考えます。そして躯体工事、仕上工事と進み暫くすると外部足場が外れ建築物の姿が現すと“ああ良い設計だ”とか“変な建物だな”と感ずるのも楽しみです。また建築計画の看板を見かけると出社し、営業担当者や設計事務所や発注者に伺うことがあります。飛び込み営業で見積りをさせてくれることはごく稀で、まして受注の可能性は限りなく低いものです。しかし飛び込み営業は設計事務所や発注者への自社のPRの場で将来の繋がりを持つための大事な手段です。



もう5~6年前のことでしょうか毎朝走るコース沿いに古い木造の店舗兼住宅の塀に建築計画の看板が掛かっておりました。既存の建物の建替えで営業担当者と飛び込みで設計事務所に行き、運良く所長さんと面談することが出来ました。売り出し中の新進気鋭の方で作品は主として打ち放しコンクリート仕上げを好んでおられました。話し込んでいううちに話題が広がり、打ち放しコンクリートの性能や職人の気質について話しました。そして工事については良い職人を使う建設会社をお願いしたい旨の希望がありました。良い職人を使う建設会社とは、仕事を安心して出来る環境を専門工事業者に提供できる建設会社と私は理解しています。現場監督が手戻り手直しがなく的確に指

示をして初めて良い職人が良い仕事をしてくれると考えています。今の 50～60 歳代の現場の監督員の方々がまだ若かった頃の話ですが、左官工事の壁塗りは朝から下塗りをして中塗りから仕上げまで季節によって異なりますが深夜までかかったと聞いています。近年の左官工事の壁塗りについては打ち放し薄塗り工法が主流です。朝から塗り始めても夕方には仕上げられるようになりました。

しかしコンクリート打設時の床仕上げの場合は夜まで作業が続きますし冬期は床押さえの仕上げは深夜、そして翌朝までかかることもあります。現場を管理する監督員はその作業に遅くまで付き添います。夜間作業の設備、職人や監督員の残業代も発生し、良い工事にはコストがかかるものです。また打ち放しコンクリート仕上げは構造体に仕上げ分を増し打ちし、型枠脱型後乾燥期間を経て撥水剤を塗ってありますが通常のタイル張りや吹き付けタイル等の仕上げに比べ耐久性を保つ期間は短いことは否めません。スキーを楽しむ方はわかるでしょうがウエアは降雪時に着る機会が多い人ほど防水性の効果は短くなります。シーズン終了間際の3月末の子供の春休みに滑りに行くといんストラクターが防水効果のなくなったペラペラのウエアを着ています。シーズン中連日ゲレンデに立つインストラクターのウエアは降雪や降雨で防水性がなくなっているのです。建築物にも同様のことが言えます。風雨に晒される外壁は耐久性の良い仕上げ材を用いる事が大切なことです。打ち放しコンクリートに撥水剤塗布の仕上げはある期間を過ぎると再塗布が必要となります。その費用は所有者の負担になるわけです。竣工後出来る限り所有者の負担を少なくする材料、工法を検討するのも設計者の大きな仕事と考えています。

最近の発注者は事業計画の関係上コストダウンを強く求める事や想定予算以上の要求をされる事もあり、設計者としては頭を痛める事が多いでしょう。そのような発注者の要望が影響するのか、設計者が自分の引いた図面の工事費がどの位かを把握していないケースが少なくないようです。経験則に基づく予想工事費の算定が建築物の種類や規模、形状で発注者の予算から大幅に超過する事も多いと聞きます。同規模の建築物でも1棟を分割し2棟以上にすれば工事費が上がる事は明白です。発注者や設計者が計画段階で採用する坪割り工事費算定は施工者の立場からは根拠のない、説得力に乏しい机上のそろばん勘定です。大きなお世話と言われればその通りでしょうが、若い経験の浅い設計者は積算を勉強する必要があります。設計者の立場からの実情にあった積算技能を習得すべきでしょう。最近私共の会社で積算したある工事は発注者の希望金額より大幅に超過しました。数社の競争見積もりでしたが参加した会社いずれも同様に、コストダウンの交渉をしましたが不調でした。その後経過はどうなったか不明ですが、発注者の希望金額から大幅に工事費が膨れ上がる事は異常です。設計者は発注者との深いヒアリングの中から希望を確認し、図面化するわけです。また競争見積もりに参加した企業は、自社が選択される、されないにかかわらず、その設計図が事業化されることを前提に労力を掛けて積算します。見積もりに参加した建設会社は提示した価格が大幅超過になり、その図面での事業化が中止や大幅な変更になることは考えてもいませんし、金額的差異は小規模な変更で調整できる範囲で設計が完了していると認識しています。もう少し踏み入れた表現を用いれば事業化できない図面で、それを競争見積もりさせる事はありえないと認識しています。そのことについて思い出すことがあります。もう 25 年以上前のことですが私も大学の建築科で設計の勉強をしていました。センスの良い図面を書けず施工会社に就職しましたが良い設計をする学生は私から見れば羨ましい限りでした。しかし卒業直前当時の指導教授に授かった事があります。当時は何の事か理解出来ませんでした。今振り返ると良い教えをくれたと感謝しています。“大学の教室で良い設計をする者は成績優秀で成功者だが、実社会では良い設計をしてもそれが事業化しなければ失格だ”と。

今年度は、木造の構造講習会や照明の講習会、燃料電池などの新エネルギーの研修、バウビオロジーの講習会、県産材の伐採現場見学と多方面に目を向け、いろいろな角度から、建築環境を考える機会を得ました。



照明の講習会では、基礎編・実践編と2部構成で行なわれ、基礎編では光を感知するシステムや光源の種類使い方などを詳しく講習していただき、今後の仕事にも生かせる講習会でした。

また、県産材の見学会では、新月伐採の現場を見学し、ヒノキが実際に切り出される現場を見てすごい迫力とその技術にビックリし、また、県産材で造っている寺院に圧倒され、楽しく研修することが出来ました。



参加者の感想

氷室敦子

9月10日 山辺豊彦先生の木構造講習会に初めて参加しました。学生時代からどうも構造は苦手、難しいとの印象が強かったのですが、今までに聞いたどの講義よりわかりやすく良く理解できました。

昨年に引き続き第2回ということでしたが地震のメカニズムから始まる地盤調査のお話。

壁倍率・偏心率の話では木構造の特性からその考えかたや力の流れ。

阪神淡路大震災の写真を見ての事例の検証。

接合部の話では伝統工法の継ぎ手や仕口がいかに関木特性にかなっているかや、金物の種類や役割などに話がおよびました。

豊富な事例写真とともに実験での検証の紹介もあり図や文字からだけでは分かりにくいものもすんなり入ってきました。

もっとたくさんのお話を準備されていたようですが時間切れとなり少し残念でした。

テキストの最初にあった「木造はRCやS造と何が違うのか」当たり前のことですが全ては材料の特性を理解した上でそれを生かすことが必要だということがよく分かりました。

また機会がありましたらお話をお聞きしたいと思います。

建築環境部会では、今後取り上げて欲しいテーマや、行なって欲しい講習会などがありましたら、どうぞ下記メールまでご連絡ください。 kanky@kanagawa-kentikusikai.com

スクランブル調査隊「鞆の浦」参上！！

スクランブル調査隊 隊長 森山恒夫

11月19日から23日まで広島県福山市鞆の浦へ行き、2棟の建物を調査しました。

御存知の方もいらっしゃると思いますが、イコモス（国際記念物遺跡会議）世界大会で鞆の架橋事業の放棄と代替案を求める決議をしています。

詳しくは URL を開き新聞記事をご覧ください！

<http://tomo.mook.to/>

架橋のことは以下の URL に詳しいです。

<http://tomonoura.jp/tomo-machidukuri.html>

架橋問題がこじれて江戸時代の建物が荒れていく現状を放っておけない状況であり、広島県建築士会福山支部の皆さんや調査大好き人間と交流をしました。まずは、建物の調査を楽しく行うことから始まりました。

以降は、調査をした皆さんの感想を頂きましたので、抜粋して披露します。



鞆の海とサヨリなどの日干し風景

建築の知識の何もない私が伺って、お手伝いするのではなく、足をひっぱったり邪魔をしてしまったのではないかと気懸りでした。浜の家の調査では、屋根裏の部屋は、前回見たとき何がなんだかよくわからなかったのが、今回博打をする場所？だったことが判明したりして大変楽しかったです。竜馬の部屋の天井を剥して、出てきた梁等を見てびっくりしました。屋根の上に又、屋根を作った形跡があったりして建物の歴史の重みを感じました。二つある蔵のどちらが古いかが議論したことなど、とても興味が沸きました。

今回調べてみて「納得」といったところが多々ありました。Eさんがわからない私のために図面で説明をしてくださりやっと理解できたところもありました。これからはもっと勉強しなくてはとつくづく思いました。文京たてもの応援団(A)



「浜の家」合羽を着て小屋裏調査中

準備不足で調査に参加したため、全体が頭に入るのに時間がかかり大したお役にも立てなくてすみませんでした。調査も楽しく参加させていただき、前回うかがった時とはまた違った発見もあり、奥が深いですね。

福山支部の皆さんと交流会を持てたのは本当によかったと思います。建築士も地域性を生かした活動が大事だと思うのです。

23日の午後、町をぐるっと散歩して魚を買ってコーヒーを飲んでから帰途についたのですが、おばさまのグループがまち歩きしているのが目立ちました。あくせくしないでゆっくり時間と空間を楽しめるようなまちに育ったらいいでしょうねえ、と思ったのでした。(B)



「浜の家」龍馬が隠れ泊まった部屋

ほとんど旅行気分で参加した私はあまりお役にも立てませんでした。とても楽しく過ごさせていただきました。恐ろしく埃まみれの天井剥しをいとわずやってくれた（女性陣の圧力によりやらざるを得なかった！？）男性お二人、本当にご苦労様でした。大阪から福山は1時間あまりで着きますが、はるばる横浜から何度も調査に来られている皆さんの情熱には本当に頭が下がります。私もできるだけ今後も協力したいと思っておりますので、よろしくお付き合いのほどお願いいたします。（C）



「桝屋清右衛門旧宅」小屋組の様子

鞆の調査ではたいへん楽しく過ごすことができました。普段から、こういった調査は私の道楽といってはばかりませんが、ひいていた風邪が治ってしまいました。好きなことをすると心身ともに健康にしてくれるとつくづく感じています。

20本のフィルム（36枚撮）が本日CDとなって出来上がりました。写真の整理、2棟の図面は皆さんと完成させましょう。昨日あたりから、調査報告書を目指してこつこつと書き溜めています。

1. 建物調査概要
2. 2棟の建物の歴史
3. 広島県建築士会と鞆
4. 鞆の歴史と建物と景観

大きくはこんな感じでしょうか。現在「浜の家」の感じたまをつらつらと書いています。「桝屋清右衛門旧宅」はまだ手付かずですが、正月返上になってしまうのでしょうか。

次の年も鞆に行こうと思っています。（D）



「桝屋清右衛門旧宅」火災跡が生々しい

以下は成果品一覧です。

「浜の家」

1. 2F 平面図、立面図 3 面、断面図 3 面、小屋伏図、1850 年当時の絵図と比較検討し現況の位置確定

「桝屋清右衛門旧宅」

1. 2F 平面図、敷地図、正面立面図、断面図、小屋伏図・「蔵 2 棟」平面図、断面図、立面図



「浜の家」天井を剥して覗いた小屋裏

毎日新聞福山支社の女性記者から 20 日午前中に「浜の家」調査中に取材されました。



鞆港と猫のしっぽ

11月11日。建築士会のワイン同好会に参加してきました。
会場は、東神奈川にある「ヴェルデ」というイタリア料理店。
ワインはどれも素晴らしく、お料理も大変美味しかったです。飲んだお酒は・・・

リゴーリオ・ピアンコ '04 (伊・シチリア)
レ・ロドレ '00 (伊・トスカーナ)
シャブリ '03 ドメーネ・デ・マランド (仏・ブルゴーニュ)
カレラ・セントラルコースト '99 (米・カリフォルニア)
CH・カントメルル '75 (MG) (仏・ボルドー)
CH・ブーヌ・カントナック '75 (MG) (仏・ボルドー)
CH・カロンセギュール 1976 (MG) サンテステフ (仏・ボルドー)
注:(MG)は普通瓶の2倍(1.5)のマグナム瓶の意

以上でした。

爽やかな白から始まって、徐々に熟成の進んだ赤へ・・・という順番だったと思われます。まろやかなカントナックもすばらしい味でしたが、一番印象的だったのは、最後のカロンセギュールでした。

葡萄の当たり年と言われる、1976年ものカロンセギュールは、底に澱がたまった状態のまま、残ったボトルをお土産にいただいて、帰りました。

妻は底の方のそれを味見できて、とても幸せだったと言っていました。

(彼女はイラストレーターなのですが、酒ライターでもあり、よくお酒の原稿を書いているのです) 本当にありがとうございました。

で、そのお礼に調べてもらったのですが(笑)

このワインは18世紀、シャトー・カロンはセギュール侯爵が所有者だったそうです。

彼はほかにシャトー・ラフィットとシャトー・ラトゥール

(どちらのワインもメドックのグランクリュの格付けで第1級のワインでボルドー最上のワイン)を所有していましたが、そのふたつの名シャトーよりも、心からシャトー・カロンを愛し『我が心カロンにあり』と、友人たちにとっても驚かせたという逸話があります。それがこのハートマークの由来で、世界中の恋人たちに愛され、ギフト一番人気ワインの所以なのだそうです。

(独身の方は恋人へのプレゼントにいかがですか?)

私がいただいた、1976年ものは、舌ざわりがよく、タンニンを比較的強く感じはしましたが、他の赤ワインでは感じる事が無い、大人しい(よく内向的という表現で言われています)しっとりした感じの味がしました。女性に例えるならば、「おしとやか」な感じかな?(笑)

でも、しっかりした味でもあるから、クリーム系のパスタやチーズなんか合うかもしれません。

(あくまで、私の個人的感想なのでホントに合っているかどうかはわかりませんが・・・)

お料理で特に印象的だったのは、「牛ほほ肉のポルチーニ茸ソース」

濃厚な味で赤ワインにとっても合っていたと思いました。他のお料理も美味しかったです。

本当にありがとうございました。

いつも素晴らしいワインを提供して下さる長井さんとワイン同好会幹事の方々に、心からお礼申し上げますとともに、皆様に至福のひとつときを過ごすことが出来ましたことをご報告いたします。

レトロ建築見学と 和の鉄人道場六三郎の料理を粋に楽しむ
厚生委員会主催 日帰りバス旅行

10月26日(水) 参加者26名

ゆるやかな坂の先に明治29年に英国の建築家コンドルの設計による旧岩崎邸が忽然と現れた。17世紀の英国ジャコビアン様式を基調にした洋館は近代建築の夜明けとともに、新しい日本の建築文化が始まった

客室の天井はシルクのイスラム風紋様の刺繍が施された布張り圧倒される装飾である

旧岩崎邸の邸内にて熱心に説明に聞き入る参加者達

広大な庭に面した南側の2層のベランダには列柱2階建てにはとても見えないが立ち並ぶ1階列柱はトスカナ式、2階列柱はイオニア式の装飾が特徴的である木造2階建てにはとても見えない

皇居内の旧江戸城の天守閣跡の前にて
この後、約1時間東御苑の庭内を散策 大番所や松の廊下跡を見学しながら----

皇居東御苑内に佇む諏訪の茶屋 見事な日本建築の美である
普段は雨戸で閉切られているがこの日は運良く雨戸は開放されていた

待ちに待った料理の鉄人 和の道場六三郎の料理を「ポアソン六三郎」にて
吟味した最高の素材、一流の料理人の手業、名画を描くような美しい盛り付け、目の前で次々と生まれてくる料理 至福のときを、心ゆくまで楽しむ

音羽通りのビル群から少し離れただけに、そこは都心とは思えない心地よい空気が流れていました
鳩山家四代が新しい時代を拓いた音羽の丘に佇む鳩山会館大正13年 鳩山一郎(総理大臣)が友人であった建築家岡田信一郎に設計を依頼した

皆、疲れも見せずに、満足顔で、バスで帰途に

絵画同好会だより

「第10回 デッサン会」

11月26日(土)の午後2時より、
「かながわ労働プラザ」にて、
裸婦デッサン会を開催、参加者6名。
デッサン会終了後、元町のレストラン
「ビスコンティ」にて、美味しいワイン
とイタリアン料理で忘年会。

モデルを囲んで各々の作品を手にして

『デッサン会に参加して』 鈴木 洋子

去年は、エジプトに旅行で参加出来ずでしたが、
久しぶりで、皆さんにお逢い出来、楽しい午後でし
た。

今年はクロッキーに水彩をとり入れ、短時間勝負で
すから、自信はありませんでしたが、
自分なりに成功でした。今後の絵に少し広がりが出
ると思っています。

何事にも相通ずるものがあって、新しい分野に挑戦
する勇氣はいつまでも持っていたいと思います。も
う少し私も頑張るぞー。

若い人達について行くぞと思っています。

【鈴木 洋子さんの作品】

Impression

海外旅行や絵画展出品やら、

精力的に活動されている

洋子さん、

いつも若々しく見えますヨ。

(デッサン時間 約 2 0 分間の力作です)

テニス同好会だより



秋のテニス合宿

9月3・4日 場所:テニス:3日小室山公園コート、4日エクシヴ伊豆コート
宿泊:城が崎海岸「ヴィラNARITA」参加者合計12名



小室山公園コート



夕飯「伊豆高原ビール本店」



皆で支度しました朝食

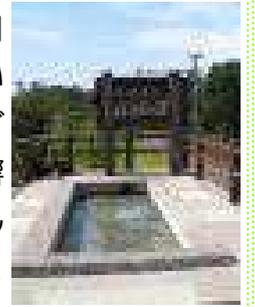


「ヴィラNARITA」前



城が崎海岸駅

平成15年から始まり今回で3回目になりました秋の合宿、前泊者・日帰り・夕飯～等々さまざまな参加方法でしたが、夕飯時には全員揃い賑やかになりました。広報から大西さんは前回の支部便り「ハイキング紀行」掲載のとうりハイキングを兼ねての参加でした。道路工事の影響で昨年好評でした入浴処「高原の湯」はお休みということで「かんばんの宿」に変更し、夕食は「伊豆高原ビール本店」となりました。昨年は豪雨で洪水の中宿泊先へ戻りましたが今年は天候に恵まれ2日間ともテニス日和でした。別荘を提供していただき感謝しています。準備お疲れ様でした。



城が崎海岸駅
「足湯」

友好試合報告

・平成17年9月19日(祭日)

合宿から10月の練習までの間、他のチームと試合をする機会があり、住宅地内にある芹が谷コートにて、男子W2、女子W1、MX1で行われめでたく勝ちました。おめでとう!



定例会報告

・平成17年10月22日(土)

練習 PM5:00～7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加10名



・平成17年11月26日(土)

練習 PM5:00～7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加11名

12月合宿の件、来年の100回記念の話題で盛り上がりました。





逗子マリーナ冬のテニス合宿

12月10・11日 場所:逗子マリーナ 参加者17名(宿泊15名)

恒例になりました忘年会を兼ねた合宿を逗子マリーナにて行いました。

今年はコートが1日目は午後から3時間、2日目は午前から午後にかけて3時間、各2面取れました。1日目は海風が強く練習に影響があったようですが晴天に恵まれました。逗子マリーナは昨年とはだいぶ様子が変わり閉鎖されたボウリング場はオシャレなレストランに変わり、施設はブライダル一色になっていました。テニスコートのクラブハウスは海側に元のプール施設を利用してあります。



10日コートにて



忘年会

忘年会、お鍋パーティは毎年のことなので段取りもよく、あっという間に出来上がっていました。

話題は2月に予定している100回記念の件、まだ何も決まっていなかったため意見交換をし、日程と内容が概略決まり早速段取りに取り掛かことになりました。



11日コートにて



11日プレー中

2日目は曇り空寒さが身に染みるスタートになりましたが、皆さん元気よくプレーをしていました。

毎年斎藤さんご夫妻のおかげで、この素敵な場所で合宿ができます。感謝しています。

テニス同好会発足100回記念のお知らせ!

横浜支部発足時のアンケートにより同好会発足以来、定例会・合宿を続けおかげさまで2月に100回目を迎えることになりました。日程と場所は下記のように決まりましたが詳細につきましては後程同好会員にご連絡いたします。特に初回から参加の方は是非ご参加いただき、これから参加されたい方もこの機会にお越しく下さい。初参加ご希望の方はお早めに下記連絡先までお願いいたします。

日 程：2月18日(土)PM~夕方：記念テニス、夕方：記念祝賀会

場 所：横浜プリンスホテル(JR磯子駅)テニスコート・2Fレストラン

同好会員募集中!

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。詳しくはホームページをご覧ください

連絡先：玉野 045-894-8452 FAX893-6614

活動報告

横浜支部ゴルフ同好会第10回コンペ

賛助会ヤマト建設小林氏が優勝！！

横浜支部ゴルフ同好会コンペは回を重ね今回で10回目となり、11月16日水曜日、市原京急カントリークラブで大変な好天の中実施されました。

コンペは、横浜支部厚生委員会ゴルフ同好会(渡邊一郎幹事)の主催で、当日は5組18人が参加しました。その中で見事優勝に輝いたのは小林清一氏で、プレー終了後の懇親会で南支部長から優勝杯と副賞が手渡されました。競技方法は18ホールズストロークプレー、ハンディは新ペリア方式で行いました。上位入賞者のお名前と成績は次の通りです。優勝は小林清一氏(ヤマト建設) ネット74(グロス98 ハンディキャップ24)、準優勝が勝治雄氏(横浜エレベータ) ネット74.4(グロス96 ハンディキャップ21.6)、3位が藤田武氏(横浜市建築保全事業協同組合) ネット77.4(グロス105 ハンディキャップ27.6)でした。また、ベストグロス賞は96の勝治雄氏でダブル受賞を獲得しました。

お知らせ

神奈川県建築士会 第3回士会活動交流会

日時：平成18年1月28日(土) 13時～17時

場所：神奈川県大学「セレストホール」

主催：神奈川県建築士会 青年委員会・女性委員会

参加費：建築士会会員・一般 ￥500

(新規建築士会試験合格者の方は無料となります)

横浜支部ホームページ

<http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sib/yokohama/>

ブログID yokohama-sibu

パスワード tamachan

皆様の投稿をお待ちしております！！

第一部

講演 13:10～14:30

講師 宮本忠長氏

第二部

活動報告会

14:50～16:20

編集者より 「たかがテーブル、されどテーブル」 田川尚吾

4人掛けの四角いテーブルに3人で座るとき、前の2人が対面で座ってしまい、さてどちら側に座ろうかと、とまどった経験がありませんか？心理学では、好きな人の隣、嫌いな人の向かいに座るといふ解答になるそうです。四角いテーブルでは、此方と彼方の対立構造が、どうしても形成されてしまいます。ドラマの離婚シーンや、外国との交渉テーブルなど、典型的な例ですね。

一方、国連や欧州会議では円卓テーブルを採用している。その食卓の形から、時代の背景が見えて下関係がありました。お父上は「尾しっかりと格付けされて、各自が専ら入って身分平等という考えも広まらなで卓を囲む西洋思想と床に座る洋折衷型」として全国に広まっています。狭い空間で壁際に収まった、四角いダイニングテーブルに、多くの人が憧れたそうです。



ブルを採用しますが、これは参加国が平らなテーブルです。

きます。江戸時代は、家族内でも厳格上頭付き」といった具合に、お皿や料理も用の「お膳」で食べていました。明治になって登場したのが、ちゃぶ台です。みんな和式を合体させたちゃぶ台は、実は「和きました。昭和30年代に団地が登場し

写真は、丸い食卓です。先輩の建築家に「食卓は直径110cmの丸にしろ」と言われ、だいた探して見つけました。不思議なもので、家族で同じおかずをつついていると、なんだか幸せな気持ちになってきます。7人まで座れるのもうれしいことですが、やはり「側や対立」の構図が生じないのが気に入っています。私は最近、この変哲もない丸テーブルが、こどもの心理や家庭環境に、じわじわと効いている気がしているのですが。